

## 小学生用の語彙サイズテストの開発と実態調査

佐藤 剛(弘前大学 教育学部 講師)

本研究は、日本人小学生を対象としたリスニング形式の語彙サイズテストの開発と、それを活用した小学生の語彙サイズの実態調査を目的としたものである。2020年から、小学校5・6年において英語が教科として指導されることになった今、語彙サイズテストの開発は、現状を把握と、それに応じた指導実践とその評価において必要不可欠であると考えた。さらに、小中連携した英語指導への応用や教材の開発への貢献など、その可能性は計り知れない。

また、現在、小学校英語教育に関して様々な実証研究が行われ、学会等で多くの研究発表がなされている。語彙サイズテストは、プレテストやポストテスト、上位群・下位群などのグルーピングのためのテストなど、多くの研究において活用されている。小学生用の語彙サイズテストを開発することによって、小学生を対象とした、様々な実証研究に活用・応用されることにつながり、この分野の研究の進展に大きく貢献することが期待される。

上記のことから、本研究では、以下の2点を目的として設定した。

1. 小学生用の語彙サイズテストを開発し、小学生の習得した語彙数を測定する方法を確立する
2. 開発した語彙サイズテストを活用して、小学生の語彙サイズを測定し、その現状を明らかにする

### 研究内容と方法

学習者の語彙サイズを測定するには、学習者の語彙知識を反映する語彙リストから、ランダムにサンプルを抽出しテストする。妥当性と信頼性が保証された語彙サイズテストの作成と、小学生の語彙サイズの実態調査ため、本研究においては、以下に示す3つの調査を実施した。

#### 調査1 語彙リストの作成

テストを作成するにあたって、小学校の外国語活動の教材から語彙リストの作成を行った。*Hi, friends!*、『英語ノート』, 教室英語辞典, 中学校検定教科書, 絵本に加え, Picture Dictionary, L1 児童用教材, L1 児童用語彙リストの言語データからコーパスを構築し, その Frequency (頻度) と Range (使用範囲) を基に主成分分析を行い, 第1主成分得点から小学生のための受容語彙リストを作成した。その結果を右の図に示す『小学生のための語彙リスト』としてまとめた。

#### 調査2 試行テスト開発と実施

上記調査1のリストから、試行テストを作成し、そのデータを分析することで、最終版の語彙サイズテストを開発するのが調査2である。テストングを扱った先行研究を検討することでテスト形式や分析方法の検討から始め、試作のテストを作成・実施しフィードバックを得るという手順をとった。テストの分析にあたっては、ラッシュモデルを活用したテスト項目分析を行い、InfitMNSQ、OutfitMNSQ、および項目難度から、不適切な項目の入れ替えを行い、最終版を完成させると共に、小学生にとってどのような語彙が困難であるのか、容易であるのか、小学生意を対象とした語彙指導についての考察を行った。児童は、外来語として日常的に使用されている単語を理解しやすいことから、初学者であっても、英語を使用し授業を展開することが可能である示唆を得た。

#### 調査3 テスト最終版の開発と小学生の語彙サイズ実態調査

上記の調査1と調査2を経て完成した、右の図に示す、『小学生のための語彙サイズテスト』を用いて、公立小学校の児童の語彙サイズの測定を行った。開発したテストは年度初めと年度末、プレテストとポストテストのように複数回にわたる語彙サイズの測定が可能になるように、2つのフォームが用意されていることから、フォーム間の等質性の検証を行った。さらに、調査2の試行テストと同様にラッシュモデルを用いてテスト項目の分析を行い、今後のテスト改良のためのデータとした。最後に、テストの結果から、小学6年生の3学期における語彙サイズを推定した。その結果、小学生の卒業時における語彙サイズは、およそ500語程度であること、児童にとって大きな差があることが明らかになった。

本研究結果が、児童にとって英語はどのように感じられているのか、どんな単語が分かっている、どんなことに困難を感じているのかを示すことで、語彙という小さな側面ではあるものの、小学校で英語を指導している先生方の一助となることを期待する。